

# 特別支援学校就労支援フォーラム

【愛顔（えがお）のえひめ特別支援学校「ハタラク チカラ」PR事業】

県教育委員会では、障がいのある生徒の雇用促進及び理解啓発の更なる充実を図るとともに、特別支援学校と企業等との連携体制を強化することを目的として、令和7年10月30日（木）に愛媛県武道館にて『特別支援学校就労支援フォーラム』を開催しました。

## 【愛顔のえひめ特別支援学校技能検定の紹介】

「愛顔のえひめ特別支援学校技能検定」は、特別支援学校生徒の職業能力、勤労意欲を高めるとともに、企業等の雇用促進を図るため、平成26年度から実施しています。清掃、接客、販売実務、情報の4つの部門があり、県検定は4部門を年に2回、地区検定は清掃部門の基礎種目のみを3会場で年に1回実施しています。今回のフォーラムでは、2つの部門において、検定に向けた取組の中で身に付けた力を12名の生徒が披露しました。清掃では、フローリングとカーペットの事務所に見立てたスペースでダスタークロスや掃除機等による作業の実演を行いました。接客では、喫茶店に見立てたスペースにおいて来場者を座席へ案内し、注文を聞いて飲み物を提供しました。参加者からは、「手際良く清掃を行っていて素晴らしかった。」「丁寧な対応に感動した。」等の感想をいただきました。また、令和7年7月に実施した特別支援学校技能検定の様子をVTRで放映し、清掃、接客も含めた全ての部門について、来場者に見ていただきました。



### 【松山盲学校生徒によるあん摩体験】

松山盲学校にはあん摩マッサージ指圧師の国家資格を取得するための専門的な知識と技術を学ぶ専門学科があります。臨床実習を積み重ねた生徒2名によるあん摩体験は、開始10分程で予約が埋まるほどの人気でした。



### 【作業学習による製品等の展示】



特別支援学校では生徒の職業生活や社会自立に必要な知識と技能を総合的に学ぶ「作業学習」を行っています。木工、紙工、陶芸、工芸、縫製など様々な作業種目があります。生徒は実際の作業を通じて実践的な技能を学び、質の高い製品づくりに取り組んでいます。学校紹介のパネルとともに、各製品の展示を行いました。



### 【障がい者雇用等に関する相談会】

松山公共職業安定所の雇用指導官及び上席職業指導官による相談会を実施しました。企業関係者や学校関係者からの雇用及び就労に関する相談に対して、個別に応じていただきました。

### 【講演】

演題「障がい者雇用について」

講師 荻田 誠志 氏（株式会社いよぎん Challenge&Smile 代表取締役）

障がいのある方が生き活きと誇りをもって就労できる職場づくりを目指し、心掛けていることとして、「社員の健康を保つ」「経験を積ませて自信を育てる」「仕事を任せ、認め、褒める」「急がず、求めすぎず、関わり過ぎない」ことをお話いただきました。具体的には、外部への業務説明、マスコミからのインタビュー取材対応、朝礼当番や体操当番等一人一人の役割による活躍機会を通して、個々の成長の可能性を広げ、社会で役立つ幸せを感じてほしい、と説明していただきました。また、愛媛県産材を使用したものづくり、銀行からの受託業務等、業務内容についても紹介していただき、来場者からは、「障がい特性を活かす企業努力」や「ものづくりの発想」に感銘を受けたとの感想がありました。



## 【トークセッション】

「障がいのある生徒が企業で働くために」のテーマのもと、障がい者雇用を行っている企業及び特別支援学校卒業生、特別支援学校進路指導担当教員等から具体的事例を伺いました。それぞれの立場からのお話を伺うことで、何をすれば雇用が進むのか考える機会となりました。

### 《パネリストの主な発表内容》

#### ＜徳永 正明 氏（ミウラジョブパートナー株式会社 総務部部次長）＞

「出社することが楽しい」「安全・安心な」職場を目指し、年4回の面談や目安箱の設置等により社員が相談しやすい環境づくりをしていること、支援者による月1回の情報共有により社員のサポート体制を整えていること等をお話いただきました。また、就労までに身に付けておいてほしいこととして、「自力での通勤」「規則正しい生活習慣」「コミュニケーションの基礎としての挨拶」の3つを挙げていただきました。

#### ＜樫山 飛鳥 氏（ミウラジョブパートナー株式会社 社員）＞

特別支援学校在学中に学んだコミュニケーションやメモをとること、「報告・連絡・相談」が仕事をする上で役立っている、成長を実感していること等をお話いただきました。また、在学中から自立に向けて取り組んだ料理の話やアビリンピックに向けた会社のサポートについて等、新たな目標に向かって今でも挑戦し続けている様子をお話いただきました。

#### ＜大原 貴大 氏（ミウラジョブパートナー株式会社 社員）＞

入社前は先輩たちとコミュニケーションがうまくとれるか心配だったが、話してみるととても話しやすく、休日に一緒に遊ぶほど仲良くなったこと、人間関係のことを会社に相談してサポートしてもらったこと等をお話いただきました。

#### ＜中澤 零美 氏（みなら特別支援学校松山城北分校 教諭）＞

学校での進路指導に携わる中で、「毎日働く体力」「報告・連絡・相談」「周囲に助けを求める力」は就職・職場定着のために、在学中に育てたい力であること、生徒自身が自己理解を深め、本人の希望にそった職業選択を目指し、実習及び地域や企業との関わる活動を実施している等のお話をいただきました。

#### ＜遠山 悦郎 氏（特別支援学校就労支援コーディネーター）＞

学校と企業等をつなぐ立場として、就労支援としては、体験実習、現場実習を重視している、企業のサポート体制については、管理者等が変更する際には障がい特性や業務内容等の引継の充実が必要であること等具体的事例を基に、お話いただきました。

企業関係者を含め総勢 60 名以上の参加があり、特別支援学校での取組を多くの方々に見ていただきました。アンケートでは、「特別支援学校生徒には働く力があると感じた。」との感想が多く、特別支援学校の就労に向けた取組や生徒の働く力を知っていただく貴重な機会となりました。

今後も生徒の働く力やキャリア教育の取組についての理解啓発及び学校と企業等関係者との連携推進に取り組んでまいります。

